

「義」を知ることとはどういうことなのかとお思いでしょう。これこそ私の漢字教育でもっとも重視していることなのです。

じつは目で見えるものは、カードを使ったり、絵本を使ったりして教えることができますが、たとえば「冷たい」とか「熱い」とかを教えるにはどうしたらいいのでしょうか。これを教えることが「義」を知ることです。

「形・音・義」という言葉があります。漢字教育では「形」は書くことに、「音」は読むことになりますが、その形や音に生命を与えているのが「義」なのです。義を理解することは、その字が持つ本当の意味を知ることです。

たとえば「冷たい」という字を「つめたい」と読めて、なおかつ書けたとします。

しかし、この意味を知らなければ何にもならないわけです。この字を教えるには、子どもに氷の入った袋を持たせてみて、その袋に「冷たい」という漢字カードを貼っておいて、実際にこの感触を知って、指がかじかむような感覚が“冷たい”ということなんだということをわからせなければならぬのです。

この体験こそが「冷たい」という漢字の「義」なのです。この「義」をもつ

て、「つめたい」という音(言葉)と「冷たい」という形(字形)とに結びつけ、そしてこれを脳に経験として記憶させることこそ本当の漢字教育なのです。

こういう形で学習すれば、子どもは、この「冷たい」という字を見れば、それを触ったときの感触がよみがえり、その体験を思い出します。

単に字が読めても、その字が正しく書けても、このような体験を伴わないとすれば、漢字教育が成功したとはいえないのです。漢字は体験を呼び起こさせるシグナルなのです。